

米国 U.S.A

※女らしさは勝利を阻む?! ※

昨年のロサンゼルス五輪の陸上女子百メートルで優勝したエベリン・アシユフォード(米国)のコーチ、バット・コノリーさんから深刻な悩みを書きつらねた手紙が来しました。彼女は世界でも数少ない陸上の女性コーチの一人です。アシユフォードは、自分の才能と非常な努力で金メダルを手にしたと説明したあと、一部の女子選手がパワーアップのために男性ホルモンの力を借りていることを、非難しています。

「そのような行為は、これまで純粋に女性として努力してきた多くの選手の努力を踏みにじるものです。私は、何も自分のモラルを他人に押しつける気はありませんが、もし私の娘が「他の人も皆やっている」という理由で、男性ホルモンを使うようになったら……と考えると、居ても立ってもいられなくなるのです」

そして、次の項目に対して、多くの人の意見を聞きたいそうです。①女性とは、一体何でしょうか(染色体の異常も含めて)②男性ホルモンを外部から摂取した女性も、女性なのでしょうか。③「女性とは何か」を規定するために、科学者、哲学者、選手による研究が必要でしょうか……。皆さんの意見をお待ちします」とのこと。

手紙のあて先 Ms. Pat Connolly

1029 Nowita Place, Venice,

U.S.A 90291 U.S.A.

英国 United Kingdom

※世界の仲間が3カ国になりました※

米国のW.S.F.を核として始まった女性スポーツの啓蒙運動は、私たちのW.S.F.・Japanの他カナダにも波及しています。そして先ごろ、英国にも組織が作られたという報告の手紙が来しました。その一部を、ここにご紹介します。

「親愛なる日本の友人たちへ、

私たちは今回、英国でW.S.F.の組織が作られたというニュースをお伝えできることを、とても嬉しく思います。

これを機に、内外のできるだけ多くの女性スポーツ団体と、積極的に連絡をとり、皆様方も、密接な関係を作っていくたいと考えています。私たちが興味を持ってそうな企画などありましたら、是非、お知らせください。こちらからも、引き続きご連絡を取らせていただたくつもりです。皆様方の活動のご成功を、お祈りいたします」

事務局 セリア・ブラッケンリッジ

Celia Brackentidge

BRITISH WOMEN'S SPORTS FOUNDATION

TION

C/O Centre for Geography and Environment

mental Study Sheffield City Polytechnic

51 Broomgrove Road, Sheffield S10

South Yorkshire, U.K.

ソ連 U.S.S.R

※美への欲求は世界共通※

・体格の立派さ。にかけては世界でも一、二を争うロシア女性ですが、近年、エアロビクス体操でその身にチャレンジする人が増えたと、ソ連・ノーボスチ通信は伝えています。

長いこと「リズム体操」に親しんできたソ連の人たちですから、ディスコのリズムを使ったエアロビクス体操は、イマ風の格好良さも手伝って、愛好者は増える一方だそうです。

「エアロビクス体操は、体力増進に役立ち、心臓・循環器系、筋肉系の活動を刺激し、容ぼうやスタイルをよくしてくれる。我々は、エアロビクス体操を最も大衆的な体育レッスンの一種と考えている」(ユーリー・チトフ国際体操連盟会長)というお墨付もバッチリ。

最近では、男性の愛好者も増え、特別な男性用プログラムも開発されました。内容は、力と敏しようにさを育て、上肢帯を強くするものです。また子ども用は、演技時間が15・20分と短く、遊戯の要素が加えられたプログラムになっています。さらに、モスクワ第46病院のように、エアロビクス科を設け、高血圧に悩む高齢者向け教室を持つ病院まで出てきました。

そして、今年の1月からは、ソ連中央テレビの第2全国放送で、毎週3回「エアロビクス体操」の番組がスタート。近い将来、ほっそりしたロシア美人に会えることを楽しみにしています……。